環境パートナーシップちば
だより
— つながれ ひろがれ —

第１４９号
特定非営利活動法人
環境パートナーシップちば
℡：090-8116-4633
E-mail：info@kanpachiba.com
https://kanpachiba.com/

新たな飛躍の年に

特定非営利活動法人環境パートナーシップちば
代表理事　桑波田 和子

新年おめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

令和４年も会員の皆さまはじめ、多様な方の当会へのご支援、ご協力をいただき感謝申しあげます。with コロナの中で、リアル活動の制限もありましたが、対面活動への対処、オンラインの併用など臨機応変に対応してきました。

令和５年の新年を迎え、これまでの経験を踏まえ、多様な活動形態を活かして、持続可能な社会（地域）づくりへ、より飛躍する１年にしたいと思います。

具体的には、当会の主な事業の一つ「SDGs ちば拠点づくり」は３年目を迎えます。集大成の今年度は、南拠点と北拠点をつなぎ、拠点の活用など動きが見られるようにしたいと思います。２年間の事業を通して、持続可能な地域づくりの必要性、地域を超えて広域に取り組むことなど見えてきました。さらに若者（ユース）と市民団体等をつなぐ支援活動にも力を入れたいと思います。

「エコメッセ 2023in ちば」でも、多様な主体と連携、協働し、SDGs 達成へ向けて、それぞれが自分ごととして取り組むことを促せるよう、強めていきたいと思います。

地球規模での気候変動、生物多様性の危機等毎年取り組みが叫ばれています。「今でしょ！」の言葉のように、これまでよりさらに飛躍して行動する１年となるように、皆さまとご一緒に歩んでいきたいと思います。

ご協力、ご支援　よろしくお願いいたします。

新しい年を迎えて

千葉県環境生活部循環型社会推進課長　城之内 聖康

令和５年の新春を迎え、特定非営利法人環境パートナーシップちばの皆様におかれましては、ますます御清祥のことと心からお喜び申し上げます。

皆様には、日頃から地域の環境保全活動の推進や多様な主体との連携など、本県の環境行政の推進に多方面から御協力をいただき厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の影響が依然続いている中、昨年は３年ぶりにエコメッセが会場開催されるなど、新たな一歩を踏み出すことができた年になりました。

エコメッセは、会場での開催に加え、オンラインでも開催されたほか、若者が中心となって企画した展示が行われるなど、新たな時代に対応したイベントとなったと思います。様々な主体が協働して取り組むエコメッセは、県にとっても重要なイベントです。今後とも、共に発展できるよう努めていきたいと考えています。

さて、今年は、2015 年９月に国連サミットで「持続可能な開発目標（SDGs）」が採択されてから８年目となり、2030 年の目標達成に向けた中間年にあたります。環境問題等に対する社会的関心が一層高まりを見せる中、県としましても「千葉県環境学習等行動計画」等に基づき様々な主体と協働を進め、気候変動、海洋プラスチックごみや食品ロスなどの環境問題に関する施策を推進していきたいと考えています。取組を着実に進めていくためには、パートナーシップに基づく皆さまの活動が大変重要となりますので、今後とも御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

結びに、特定非営利法人環境パートナーシップちばの一層の御発展と、会員の皆様の御健勝・御活躍を祈念いたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。

『SDGs・ESD 理解促進公開セミナー』開催

2022 年 12 月４日(日) 午前 10 時～12 時
会場（千葉県教育会館）とオンライン（zoom）

国際連合広報局より

SDGs・ESD をひろげるための“ちば”拠点づくり事業（2021～2023 年度）の一環として、『SDGs・ESD 理解促進公開セミナー』を開催しました。このセミナーは「ESD 地域リーダーのスキルアップをはかりながら、多様な主体と連携、協働し、事業を展開する」ことを目指すもので、地球環境の様々な危機を直視し「誰ひとり取り残さない」５つの決意を念頭に、今回は基調講演を NPO 法人千葉自然学校 大房岬自然の家所長 神保清司氏、事例紹介を手賀沼アグリビジネスパーク事業推進協議会 事務局 鈴木亮平氏にお願いしました。

神保清司氏による「たいぶさ岬の海と森を学ぶ SDGs プログラム紹介」と題した基調講演は、ビーチコーミングの話から始まり、まず漂流物の現物を見せていただきました。鶏卵ほどの大きさでつやつやとしたタカラガイは古代中国では貨幣として使われていたこと、イルカの耳骨は世界一堅い、馬の歯からは昔家畜は大切に扱われ水葬していたことがわかる、など神保氏のひと言が加わると漂流物の魅力がぐっと増します。海外からの漂着ごみではその国の文化を垣間見ることができる。また緑色のマイクロプラスチック（5mm 以下のプラスチック）が浜辺に多く落ちているのは、ベランダの人工芝や玄関先のマットが劣化して、そばの排水溝に流れ込んで、そのまま海へ運ばれるから。40 年近く前のレトルト食品のプラの袋がそのままの形で水深 5700mの海底から見つかった写真。海は世界とつながっている、暮らしと海はつながっていることを子どもたちは体感します。

神保氏のプログラムは、海を守ることと森を守ることは一体、と「100 年未来の森づくり ～木を使う～」に発展していきます。「持続可能な未来」の敵は「無関心」、一人ひとりができることをやる、子供たちの生きる力を育むことが大事、という強烈なメッセージが込められた内容でした。

鈴木亮平氏による「市民と取り組む、ミズベ・ヌマベの活用 ～水辺の視点からヌマベクラブへ、そして手賀沼スクールヤードへ～」では、まず手賀沼アグリビジネスパーク事業推進協議会についての説明から始まりました。平成 28 年に柏市農政課が設立。（株）道の駅しょうなんが拠点運営、米農家、野菜農家、合同会社がツーリズム事業、NPO 法人が都市計画コンサルという構成員で、農を軸にしながら多様な主体と連携し手賀沼の地域づくりを進めていく。多様な視点とは環境・子育て・福祉・歴史など、行政界を超え沼・水辺・田畑・斜面林を一体的にとらえての環境保全、ということです。

そしてスクールヤードは水辺、農業、竹林などの自然や、村、お寺など郷土や歴史と、幅広い体験プログラムを学校の授業に提供する、というものです。事前学習、体験、振り返りを盛り込み、体験学習を深める。地元の手賀沼をしっかりと体験し、「また行きたい！」と愛着をもち、守り育てる担い手を生み出す。魅力ある理想的な総合学習となっていました。

公開セミナー参加者のアンケートから、両者の内容共に“感動”がうかがえました。いずれのプログラムも知識や知恵が詰まって、よく練られたものであった、また実際に参加している子供達の生き生きとした表情が強く伝わってきたからだと思います。またアンケート回答者の全員が「SDGs・ESD」についてはすでに知っている方たちで、そういう方たちが非常に高く評価してくださったことは有難く、両氏に深く感謝申し上げます。　（文責：中村 明子）

たいぶさ岬の海と森を学ぶ SDGs プログラム紹介（神保清司氏）

市民と取り組む、ミズベ・ヌマベの活用（鈴木亮平氏）

参加報告

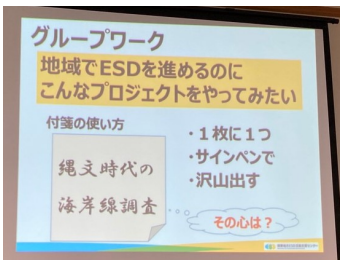
ESD 地域意見交換会 in 千葉
「千葉の SDGs 教育＆ESD」Now！

当会も ESD 拠点として登録している、関東地方 ESD 活動支援センターが主催で開催した事業に参加協力しました。

日時：令和４年 12 月４日(日)13:00～15:30
会場：千葉県教育会館　604 会議室
参加者：35 名
主催：関東地方 ESD 活動支援センター
協力：NPO 法人 環境パートナーシップちば
　　ち～ば国際教育ネットワーク（CIEN）
後援：千葉市

目的：
ESD の推進を図るための意見交換会が関東地方で毎年開催されます。今年は千葉県で「地域 ESD 活動推進拠点」等の取組み紹介を行うとともに、千葉県内で ESD を共に推進する方々と意見交換でした。

内容：
◆趣旨説明：ESD/SDGs についての概略、ESD 事例の紹介、前回の高校向け ESD プログラムの紹介
◆Ⅰ地域 ESD 活動推進拠点等の取り組み紹介
① NPO 法人環境パートナーシップちば
　＜千葉市花見川区＞
「SDGs・ESD をひろげるための”ちば”拠点づくり」
当会が展開している、SDGs・ESD をひろげるための”ちば”拠点づくりと、たくさんの多様な主体が協働して取り組むエコメッセについてお伝えしました。
② ち～ば国際教育ネットワーク（CIEN）
　＜千葉市美浜区＞
「青年海外協力隊経験を活かした小学校現場での実践」
JICA 青年海外協力隊として途上国での活動経験をもつ教員を中心に、その経験を教育現場に生かすことを目的として組織した「全国 OB 教員・教育研究会」の千葉支部として設立された。JICA 千葉デスクと協働しながら、「国際協力」「ESD」のワードを基に、学生や一般の方とイベントや学び会を開催している。大学生の２人による、活動することで自分ごととして取り組むようになった、という力強い発表がありました。
③ 流山防災まちづくりネットワーク ＜流山市＞
「避難所開設訓練を通じた、学校と地域の防災教育」
「女性防災リーダー養成講座」修了生で 2019 年４月に結成。同年９月には流山市総合防災訓練にて自治会や中学生と一緒に避難所運営訓練を実施し、女性防災リーダー養成講座、避難所運営ハンドブックの策定などにも関わった。2022 年度には関東 ESD センターと連携して、「ESD for 2030 学び合いプロジェクト（関東）～気候変動による影響と対策に関する、学びと実践」の事業を中学校で取り組んだ。設立間もない団体ですが、精力的な活動と展開がパワフルで、今後への期待が高まるお話でした。
④NPO 法人 千葉自然学校 ＜千葉市中央区＞
「青少年自然の家を核とした ESD の取組み」
NPO 法人千葉自然学校は、千葉県内における自然体験活動団体をつなぐネットワーク型の自然学校として活動している。千葉県立君津亀山青少年自然の家では、定番プログラムのほか、「きみかめ SDGs プログラム」として、「クラフト×SDGs」、「上総掘り体験」＋「水の循環体験」、「6 歳になったら机をつくろう」など、切り口を変えて環境について意識を高めるプログラム等の紹介がありました。



◆Ⅱワークショップ
ワークショップでは、「地域で ESD を進めるのに、こんなプロジェクトをやってみたい」をテーマに、地域や活動内容などの違うメンバーで活発な意見が出されました。

詳細は、関東地方 ESD 活動支援センターの HP
https://kanto.esdcenter.jp/rep221204/
をご覧ください。　　（文責：桑波田 和子）

SDGs・ESD をひろげるための”ちば“拠点づくり事業

第３回拠点づくり会議を開催しました

日　時：11 月 21 日（月）13：30～16：10
場　所：千葉市生涯学習センター研修室１及びオンライン
参加者：33 名（会場：22 名　Zoom：11 名）
ファシリテーター：石井雅章氏　神田外語大学グローバル・リベラルアーツ学部 教授
主　催：NPO 法人環境パートナーシップちば
内　容：
13：30　開会　ふり返りと本日の内容
13：40　WS-1（会場・zoom）
・北拠点に必要なもの（グループでの協議）
15：00　WS-2（会場・zoom）
・ありたい地域を実現するための拠点のあり方
・話題提供：SDGs・ESD ちば南拠点の会の紹介と近況報告
16：10　閉会

（WS まとめ）会場とオンラインでの WS でしたので、メンバーは流域で分けました。オンライン参加者は、２つの流域にバランス良く収まり、オンライン同士で話し合いが出来ました。

WS①では、主な意見として、　・拠点のニーズはあるので、拠点を動かす人が重要　・拠点として一体感が感じられるテーマ　・活動団体の生態系マップ　・外来種テーマで共有の接点を見つける等、拠点としてのテーマが必要とのことでした。

WS②に入る前に、SDGs・ESD ちば南拠点の会と近況を報告し、拠点のイメージを提供しました。その後、②北拠点に必要なものについて協議した結果、下記のワードが上がりました。

・くらしの視点。文化　・祭りでつながる。学校との連携にキイマン。情報の可視化。　・現場（足元）での体験。対話と拠点。　・連携イメージを共有する活動風景（写真）。

第４回拠点づくり会議では、WS②のワードを基に拠点の具体的な活動について協議します。

どのような活動が出来るか、楽しみになってきました。　（文責：桑波田 和子）

印旛沼学習の出前授業

八千代市立八千代台東小学校４年生の総合的な学習「印旛沼調査隊！」の水質の部分を環境パートナーシップちばが担当させていただき、11 月４日に小倉が授業をしてきました。八千代台東小はいわゆるマンモス校で、4 年生は３クラスで 107 人。当日は約 30 人×45 分間×3 回の授業を行いました。

プログラムはプロジェクト WET の中の「誰が川を汚したの」を使いました。体験型環境学習プログラムとしては古典的ですが、今回は舞台を印旛沼に移してシナリオを書き換え、「だれが印旛沼を汚したの」と名前を付けました。簡単に言うと、印旛沼に見立てた水槽の中に、参加者がシナリオの指示に従って「汚れ」を入れていくと、「印旛沼」の水がだんだん汚くなっていくというものです。

シナリオには、畑に肥料をまくとか、自動車が排気ガスを出すという、いわゆる「面源汚濁負荷」も加え、実際の印旛沼の再現を試みました。

子どもたちには「これからおもしろいゲームをやるよ」と言ってから始めたので、みんな興味津々。最後にドロドロに汚れた「印旛沼」が出来上がり、「誰が印旛沼を汚したの？」という問いかけに対して、「全員！」という元気な答が返ってきました。期待した以上に印旛沼の汚れを「自分ごと」として認識してもらえたようでした。

12 月 20 日には発表会があり、聴かせてもらいました。印旛沼の汚れを自分ごととして認識してくれたのは良いのですが、子供たちには最後の汚れ切った「印旛沼」の印象がとても強かったらしく、印旛沼＝（すごく）汚れた沼　とインプットしてしまったようです。本当は、いいところだ、行ってみたい、と思ってほしかったのですが、逆効果でした。今度は印旛沼を好きになってもらえるようなプログラムを開発しなければと反省しました。

（文責：小倉 久子）

会員交流会報告「もったいないキウイを味わいました」

12 月９日、蘇我コミュニティセンター料理実習室で環境パートナーシップちば会員交流会を行いました。参加者は、運営委員８名でした。９月の交流会での「次回は、ぜひリアルでキウイを味わいたい！」の思いを叶える会でした。話題提供者である萩原さんは、話題だけではなくキウイも山盛りでご用意くださっていました。まずはなぜ今日キウイなのか、もういちど復習として萩原さんにお話しいただき、その後試食となりました。

萩原さんは、酒々井と山梨の２拠点で生活し、山梨でキウイ栽培の援農をしています。そして、生産現場ではキウイの約１割が廃棄されていること、ほかの作物も同様であるという現実に心を痛め、話題提供いただきました。解決策は出なかったけれど、キウイだけでなく他の農作物も同じことと思うと、消費者としてこのような現実を知るべきであると痛感しました。

実は交流会担当の中村さんと廣田には、事前に「もったいないキウイ」が届いていました。どう試食するかを考えるためです。しかし、届いたキウイはなぜ廃棄されるのか全くわからない立派なキウイで、確かに形が少し変わっていたりはするものの、追熟出来た頃にいただくと甘くジューシーで、すっかりおいしさの虜になってしまいました。交流会でも、なるべくそのままいただくべきということで、「そのままのキウイ」「追熟していないキウイを使ったフルーツソース」「シャーベット」の３種類を試食しました。

ふだんオンラインで話してはいるものの、リアルでお会いするのは久しぶり、さらに一緒に何かをいただくなんて何年ぶり？ということで、実に良い時間を過ごすことが出来たことを報告します。次回の交流会は、ぜひ多くの皆様のご参加をお待ちしています。

（文責：交流会担当/廣田由紀江）

いちはら市民大学【環境コース】環境まちづくりワークショップ

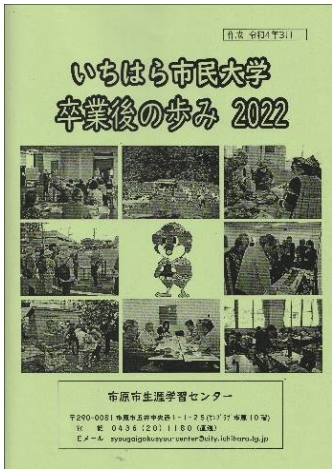
環パちばは今年も、市原市民大学【環境コース】環境まちづくりワークショップⅠ、Ⅱを担当しました。今年は桑波田・小倉・谷口・中村が、活発で元気な受講者たちと一緒にワークを行ってきました。

Ⅰ（11 月 22 日）では「環境分野で課題を見つけ、仲間を作ろう」、Ⅱ（12 月６日）では「課題解決に向けて、仲間と行動計画をつくり発表し、自分ごととしよう」と２段階に目標を設定。受講者は 12 名でしたが、「地球温暖化」「ごみ・リサイクル（3R)」「里山や自然環境の保全」の３つのテーマに分かれグループを作ってもらいました。

まず最初に全員で「SDGs 未来都市」の広報動画を見ました。（市原市は令和３年５月に内閣府から千葉県で最初の「SDGs 未来都市」、さらに先導的な取組として「自治体 SDGs モデル事業」にもダブルで選定されています。）それからグループに分かれ、ワークを始めました。

私がファシリで参加したのは3R のチーム。メンバー全員が、廃棄物処理施設見学がとても印象深く、中間処理の現場がいかに大変か痛切に感じたとのことでした。すでに生ごみリサイクルや、資源分別に積極に取り組んでいるなど、3R の意識が高い方たちでしたが、さらに「ごみを減量、物を大切に、自分自身が3R マスターになろう！」という熱い思いを活動の目的にしました。また他のグループもそれぞれ問題を自分事とし、次にアクションを！という方向で盛り上がったようでした。

平成 25 年度から始まったいちはら市民大学は、のべ 500 人以上が卒業。その後の活躍をまとめた冊子『いちはら市民大学　卒業後の歩み　2022』からは、卒業生が色々な場所で色々と活動し、生き生きと、お互いによりよく影響しあえるまちづくりが進んでいることがうかがえました。



（文責：中村　明子）

運営会議報告

１２月度運営会議

12 月８日（木）20:00～22:00
会場：オンライン（Zoom）

【報告】
・第３回拠点づくり会議 11/21
・地球環境基金応募提出 12/1
・だより 148 号及びニュースレター6 号印刷・発送
・いちはら市民大学（環境コース）11/22、12/6
・SDGs/ESD 公開セミナー　12/4
・セブンイレブン基金応募打ち合わせ

【協議】
・だより 149 号
・定例会 12/9
・令和５年度地球環境基金事業内容
・2023 年度事業（次回継続審議）

１月度運営会議

１月 19 日（木）20:00～22:00
会場：オンライン（Zoom）

【報告】
・SDGs 学生フォーラム企画運営会議　1/11
・地球環境基金 2022 年度内事業見通し提出

【協議】
・だより 149 号
・SDGs 学生フォーラム in ちば
・地球環境基金事業
・2023 年度事業について
　地球環境基金、印旛沼環境基金、他
・理事会開催検討
・印旛沼環境基金報告会　1/24
・環境教育関東ミーティング　2/11

お知らせ

SDGs 学生フォーラム in ちば
～SDGs でつながる学生ネットワークをつくろう～

千葉県内には SDGs をテーマに活動している学生団体、また若者と一緒に活動している市民団体があります。活動は様々ですが、お互いを知ることで新しいヒントや化学反応が生まれます。「学生」「団体」の両方の視点から、一緒に活動を考え交流する場を開催します。

日時：2023 年３月 12 日（日）
　　13：30～16：30
開催形式：会場・オンライン
会場：千葉市生涯学習センター小ホール
　（千葉市中央区弁天 3-7-7）
定員：会場 60 名　オンライン 60 名
参加費：無料（要申込み）
対象：・高校生～大学生
　・若者の活動支援をしている団体。
　・若者と一緒に活動したい団体。
　・SDGs に関心のある方
主催：NPO 法人 環境パートナーシップちば
協力：学生団体おりがみ環境チーム
　千葉大学環境 ISO 学生委員会
　ち～ば国際教育ネットワーク　CIEN
後援：千葉県　ESD 活動支援センター
　ESD-J（申請中）

プログラム：
１．趣旨説明
２．学生団体・NPO 団体の活動紹介
３．意見交換
４．交流会（会場のみで実施）

申込み：entry@kanpachiba.com 宛てに、下記事項を記入して申し込みください。締切りは３月６日

件名「SDGs 学生フォーラム in ちば」
① 氏名　② 所属団体　③ 参加方法（会場 or オンライン）　④ 連絡先（携帯番号）
お問い合わせ： 090-8116-4633 (環パ事務局)

※詳細は https://kanpachiba.com/　を検索
※地球環境基金の助成を受けて開催。

「特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば」

環境活動の推進と充実を図るため、市民・団体・企業・行政・学校とのパートナーシップのもと、「持続可能な開発に向けた目標(SDGs)」や「持続可能な開発のための教育(ESD)」の視点を意識して、さらなる持続可能な社会の実現をめざすことを目的とする。

お問い合わせ
事務局：〒262-0006　千葉市花見川区横戸台 21-13　特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば
Tel　：　090-8116-4633　　E-mail：info@kanpachiba.com
ホームページ：https://kanpachiba.com/
※会費や会員申し込みなどの情報は上記 ＨＰでご確認ください。